

2 原山本谷施業指標林

古川営林署

設定の目的

ブナ地帯の天然更新体系の改善を図るため、モデル施業体系指標林を設け、収穫から更新に至る個別方法の改善を図り、技術体系の検証、普及定着に供する。

場 所 岐阜県吉城郡河合村原山本谷国有林175林班う・の小班

面 積 3.75ha

施業等の概要

伐採前の林況は、ブナ、ミズナラ、その他L、林齢200年、材積176m³/haの天然林
昭和52年9月～10月、ブナ、ミズナラ（径36～58cm）本数35本/ha、列状保残と、ブナ（径30～50cm）本数30本/ha、点状保残し伐採

昭和53年筋刈地拵、昭和59年刈出し（除草剤空中散布NaClO₃・200kg/ha）、昭和61年刈出し（人力）、昭和62年母樹伐採

調査計画等

昭和51年7月稚樹調査プロット（列状母樹保残区・点状母樹保残区）設定、昭和59年まで毎年調査を行った。

その後平成3年度にブナ他有用広葉樹の稚樹発生調査を行い更新状況を調べた。

地 況

標 高：1,090～1,190 m 林地傾斜：30°

土壌型：B_b(d) 方 位：E

林 況

列状母樹保残区、点状母樹保残区とも、ブナ、ミズナラ、カエデ類の稚樹が順調に成育しており、30cm以上のものが多く見られる。

ササの再生は一部に見られるものの稚樹の成育に影響を及ぼす状況でなく、このまま推移すれば成林が期待できる。